

謹弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

津 永 甲 次 氏	徳 山医師会	2月26日	享年 93
桃 崎 能 正 氏	下関市医師会	2月27日	享年 87
富 田 茂 氏	宇部市医師会	3月5日	享年 73
相 川 一 郎 氏	吉 南医師会	3月11日	享年 94

編 集 後 記

えー、個人的な話題で恐縮ですが、私はカタカナ言葉、つまり外来語がかなり苦手です。特に自分が興味のない分野に関しては、絶望的にカタカナ言葉が出てきません。例えば「マカロン」と「マセラティ」。頭にはそのお菓子や車の形が浮かぶのですが、口から出てくるのは、「モーパッサン」「モンテネグロ」「マザラン宰相」「マゾッホ」……。会話の相手が見当をつけてくれるまでその周辺の単語を辛抱強く羅列してゆきます。家族の車も車種を覚えられず、青い車とか赤い車とかカップ麺みたいに呼んでいます。ですから、「SDGs」なんかを自家薬籠中の物としている人を見ると尊敬します。

そんな私が、最近テレビで映画「クールランニング」を観ていた時のことです。この映画、南国ジャマイカのボブスレー男子チームがカルガリーオリンピックに出場した実話に基づいたものでヒットしましたね。ご存知の方も多いのではないのでしょうか。30年前に観たときには、常夏の国ゆえジャマイカチームが草原の斜面で練習したり、冷凍庫で寒さ対策をしたりというエピソードに笑った気がします。今回は、ジャマイカではウィンタースポーツなんて無理だという決めつけや、カナダに乗り込んでからは欧米勢との疎外感と闘う彼らの姿に引き付けられます。ついに一致団結したジャマイカチームが予選突破したものの、本戦1日目は強豪スイスチームの真似をして自滅。2日目は、うってかわって俺たちジャマイカ人なんだからジャマイカ人らしいスタイル『クールランニング』でいこうぜと、ラップを歌いながらコースに登場してきました。ついつい見入っていた私は、このシーンで「ダイバーシティやん」と呟きました。そして今まで活字だった「diversity」が、自分の日常語になったこと。そして「ダイバーシティ」という言葉によって、自分の映画の見方が変わったことにも気が付きました。

「アンコンシャスバイアス」、「マイクロアグレッション」、「ポリティカル・コレクトネス」。次々と新しいカタカナ言葉が出てきますが、もしそれが今まで自分が見えてなかったものを明らかにする言葉なら、なんとかして受け入れていこうと思います。

(常任理事 長谷川奈津江)